

平成 18 年度油ヶ淵生物モニタリング調査概要 植物プランクトン調査

- ・ 調査時期：平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月（毎月、計 12 回）
- ・ 調査地点：湖内 1 地点（P1[下池] 図 5 参照）
- ・ 結果

P1（下池）地点における平成 17 年度～18 年度の植物プランクトンの種類数及び細胞数の変化を図 6 に示す。

種類数、細胞数共に珪藻綱に属する種が年間を通じて多く出現したが、2 月や 3 月など、クリプト藻綱に属する種や緑藻綱に属する種が多く出現する月もあった。アオコの原因種である藍藻綱の出現は少なかった。なお、細胞数は月による変化が大きく、3 月はこの 2 ヶ年で最多であった。

種類数の変化は平成 17 年度、18 年度共に概ね同様であり、10 月から 11 月にかけて減少し、12 月以降増加する傾向がみられた。一方、細胞数は時期により変動が大きい傾向がみられた。

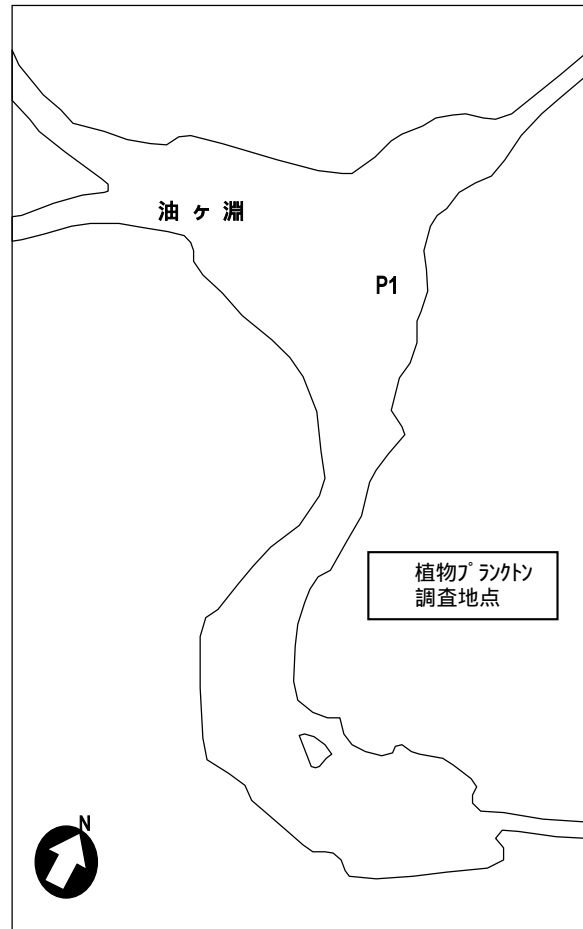


図 5 植物プランクトン調査地点位置

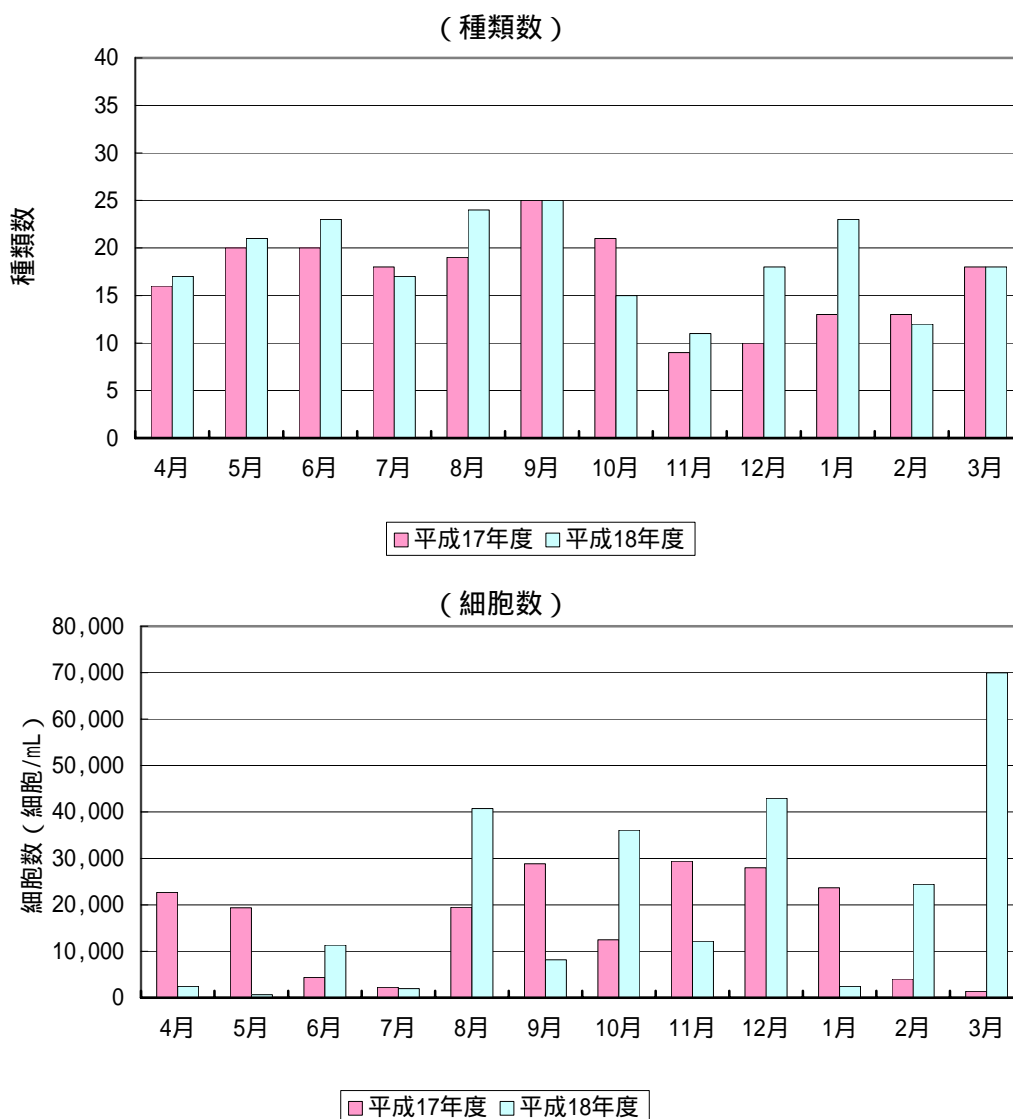


図6 植物プランクトンの出現状況

植物プランクトン量の指標となるクロロフィルaとCODの経月変化をみると、クロロフィルaとCODの変化は概ね連動している傾向がみられた(図7参照)。このことから、湖内のCODは植物プランクトンの内部生産の影響を受けているものと考えられる。なお、2月及び3月は、クロロフィルaの値が高く、CODの値も高かった。

平成17年度～18年度の調査期間中は、水質改善事業が行われている最中であり、現段階では、流入水及び湖水の栄養塩類の減少、底泥の改善といった過程にあたると思われるため、今後、湖内の植物プランクトンの状況も変化していくと考えられる。

したがって、引き続き水質や植物プランクトンの状況を監視していく必要がある。

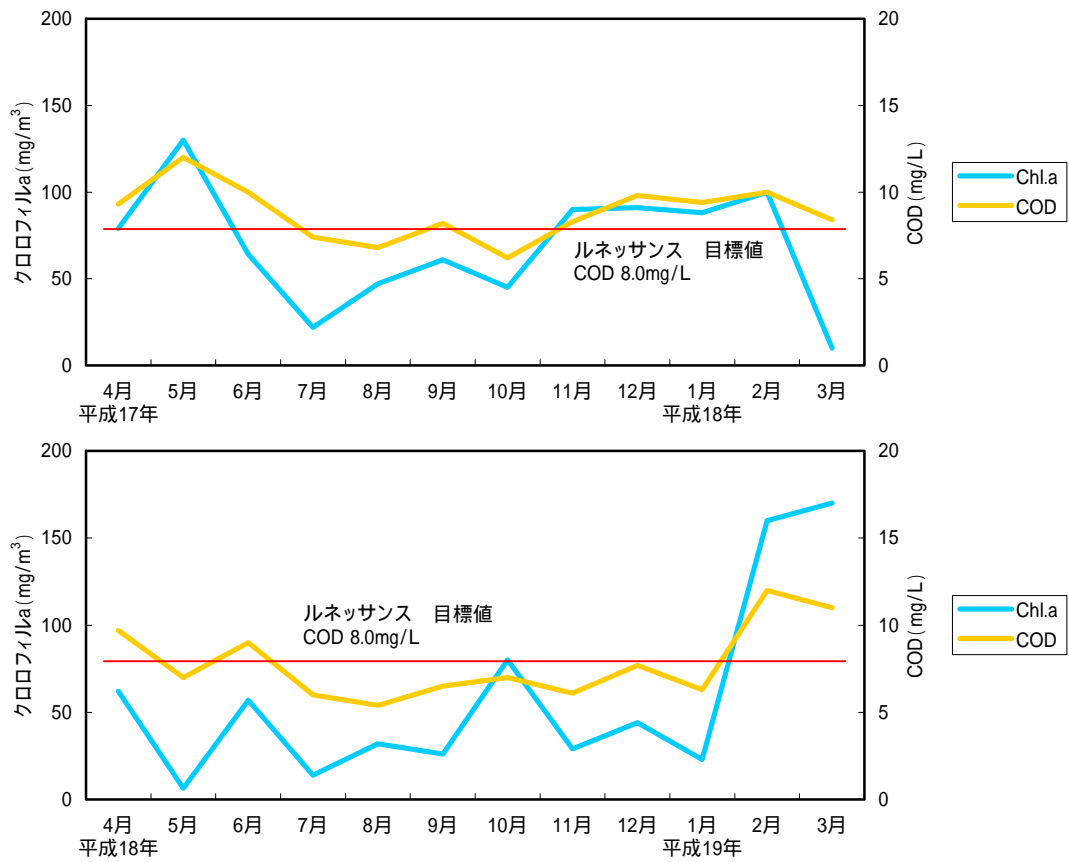


図7 クロロフィルaとCODの経月変化